

令和元年度  
(2019年度)

# 学校教育部の取り組み実績

<部の構成>

教育支援推進室、教職員課、教育指導課、教育研修課、放課後子ども課

## 1. 重点施策・事業

### (1) 学力向上の取り組みの推進

方向性

「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりと個に応じた家庭学習を推進し、子どもたちの確かな学びと自立の力を育みます。

#### 【学力の向上】

児童・生徒一人ひとりの知識や技能の習得及び思考力・判断力・表現力の育成に向けて、全中学校区へコーディネーターを配置し学力向上委員会、教科会、学年会等の充実を図り、組織的な取り組みを推進するとともに、学力向上・授業づくりに高い見識を有する学識経験者の招聘による教員の授業力向上を図ります。また、ICT 機器を効果的に活用し、より高い学習効果につながる授業改革を進めるとともに、少人数学級編制や習熟度別少人数指導等により、きめ細かな指導の充実を図ります。

さらに、授業・課業時間外・家庭学習において、パソコンやタブレットによる学習コンテンツを効果的に活用することで、新学習指導要領で求められている言語能力や情報活用能力の育成を図ります。

取り組み

#### 【学力状況を把握・分析し指導方法等を明確化・公表】

全国学力・学習状況調査実施後すぐに、教員が問題分析・自校採点及び分析を行い、学校全体としての課題や個々の課題にも正対した取り組みを行うとともに、教科会・学年会における授業研究の推進を図ります。

また、児童・生徒一人ひとりの課題を踏まえ、宿題や自学自習ノート等、家庭における学習習慣の充実に努めます。

#### 《目標値》

- ・全国学力・学習状況調査の平均正答率：全国平均以上
- ・児童・生徒質問紙調査「算数・数学の授業がわかる」に対して肯定的回答をした児童・生徒の割合：対前年度2ポイント向上（各校種）

平成31年度当初予算：66,389千円

実績	<p>全中学校区に学力向上に特化したコーディネーターを配置し、授業改善や少人数指導などの取り組みや、学識経験者による講義や指導・助言により授業力向上を図りました。</p> <p>また、児童・生徒の理解度に応じて学習できる学習コンテンツを導入し、家庭学習等の充実を図りました。</p> <p>全国学力・学習状況調査については、問題分析、自校採点及び調査結果の比較・分析を行い、授業研究において活用しました。</p> <p>《実績値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査の平均正答率：小学校 64.5% (全国平均 65.2%)・中学校 63.7% (全国平均 62.9%)</li> <li>・児童・生徒質問紙調査「算数・数学の授業がわかる」に対して肯定的回答をした児童・生徒の割合：小学校 89.1% (平成 30 年度 86.7%)・中学校 78.8% (平成 30 年度 76.0%)</li> </ul> <p>令和元年度決算：63,575 千円</p>
	<p><b>取り組みに対する達成状況</b> <span style="float: right;">【 ○ 】</span></p>

<b>(2) 英語教育の推進</b>	
方向性	<p>新学習指導要領の全面実施を見据え、児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図ります。</p>
取り組み	<p><b>【英語教育指導助手の配置】</b> 全中学校に外国人英語教育指導助手 (NET)、全小学校に英語が堪能な日本人英語教育指導助手 (JTE) を配置し、英会話や英語を使った体験的な学習の充実を図ります。</p> <p><b>【指導体制の強化】</b> 新たに、小学校外国語活動の特別免許を所有する教員を配置するとともに、小学校英語専科教員及び日本人英語教育指導助手 (JTE) を拡充するなど、小学校外国語活動の指導体制の強化を図ります。</p> <p><b>【外部検定試験の活用】</b> 英語の 4 技能 (「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」) をバランスよく育成するため、全市立中学校第 2 学年の全生徒を対象に 4 技能に対応した外部検定試験を実施し、その結果分析をもとに授業改善、個に応じた指導及び生徒の学習意欲の向上に活かします。</p> <p><b>【大学との連携】</b> 関西外国語大学と連携し、「枚方英語村」を実施するなど、児童・生徒が留学生と交流し、英語を使った体験的な活動の充実を図り、より実践的な英語力を育みます。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「英語の授業が楽しい」と答えた児童・生徒の割合：90.0% (平成 30 年度 86.9%)</li> <li>・大阪府中学生チャレンジテスト (第 2 学年の平均正答率)：対前年度比向上</li> <li>・外部検定試験結果を活用して、国際基準 CEFR Level A1 に中学校卒業段階で到達した生徒の割合：50.0% (第 2 期教育振興基本計画における成果指標を踏まえた英語力</li> </ul>

	の目標値) 以上
	平成 31 年度当初予算：155,924 千円
実績	<p>全中学校に NET、全小学校に JTE を配置し、英語を使った体験的な学習を実施しました。小学校においては市独自で英語専科教員を平成 30 年度から引き続き 4 名配置するなど、小学校外国語活動の指導体制の充実を図りました。中学校については、第 2 学年の全生徒を対象に英語外部検定試験を実施しました。</p> <p>また、関西外国語大学と連携した「枚方英語村」は昨年度に引き続き実施しました。</p> <p>《実績値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「英語の授業が楽しい」と答えた児童・生徒の割合：(令和元年度は調査予定時期が新型コロナウイルス感染症の影響で休校となったため、調査できず。)</li> <li>・大阪府中学生チャレンジテスト平均点：前年比 1.07 倍</li> <li>・外部検定試験結果等を活用した、CEFR Level A1 の生徒の割合：40%</li> </ul>
	令和元年度決算：148,921 千円
	<p><b>取り組みに対する達成状況</b> <span style="float: right;">【 ○ 】</span></p>

(3) 読書活動の推進	
方向性	児童・生徒の言語能力を育むため、全中学校区に配置した学校司書と司書教諭が連携して、義務教育 9 年間を見通した読書活動の充実を図ります。
取り組み	<p>市立図書館と連携した学校図書館の環境整備、児童・生徒の読書習慣の確立、調べ学習等授業における学校図書館の活用を推進します。</p> <p>また、社会教育部と連携して、全中学校が参加する「ビブリオバトル」を実施します。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の読書量 (1 日 10 分以上の児童・生徒の割合)：対前年度 5 ポイント向上 (平成 30 年度枚方市立小学校 59.9%・中学校 47.3% 全国小学校 66.2%・中学校 53.5%)</li> <li>・「ビブリオバトル」参加校数・生徒数：19 校×3 名 (平成 30 年度 17 校 48 名)</li> </ul>
	平成 31 年度当初予算：58,506 千円
	<p>全中学校区に学校司書を配置し、児童・生徒の読書習慣の確立や調べ学習等、授業における学校図書館の活用を推進しました。</p> <p>令和 2 年 3 月実施予定であった「中学生のビブリオバトル」については、新型コロナウイルス感染予防の観点から中止しました。</p> <p>《実績値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の読書量 (1 日 10 分以上の児童・生徒の割合)：枚方市立小学校 63.6%・中学校 42.8%</li> </ul>
	令和元年度決算：60,638 千円 (※補正予算等の対応あり)
	<p><b>取り組みに対する達成状況</b> <span style="float: right;">【 ○ 】</span></p>

(4) 体力向上の取り組みの推進	
方向性	児童・生徒の体力向上に向けた取り組みを計画的に推進します。 また、中学校部活動について生徒の心身のバランスが取れた成長を促す観点から活性化と充実を図ります。
取り組み	<p>【体力の向上】</p> <p>各学校で、全児童・生徒を対象に体力テストを実施し、その結果に基づいて体力向上推進計画を作成・実践するとともに、大阪体育大学と連携して、授業改善をはじめ児童・生徒の体力向上に向けた取り組みを推進します。</p> <p>また、小学生対象の陸上競技大会、駅伝競走大会、水泳記録会等を通じて児童の体力向上を図ります。</p> <p>【中学校部活動】</p> <p>専門的な知識や技能を有する部活動指導協力者を派遣し、指導の充実を図ります。また、「国のガイドライン」を踏まえて策定した「枚方市中学校部活動方針」に即して、適切な練習時間や休養日を設定するなど、生徒にとって望ましい環境を構築し、地域、学校、競技種目等に応じた多様な形で最適に部活動を実施します。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの各種目の結果の平均値：全国平均（平成30年度 50.76点／80.00点）以上</li> <li>・「運動やスポーツをすることが好き」と答えた児童・生徒の割合：90.0%（平成30年度 85.7%）</li> </ul> <p>平成31年度当初予算：22,115千円</p>
実績	<p>全児童・生徒を対象に体力テストを実施し、その結果に基づいて体力向上推進計画を作成し、実践するとともに、大阪体育大学との連携による指導・助言等を受け、体育科の授業改善を行いました。</p> <p>中学校部活動については、部活動指導協力者を派遣するとともに、枚方市中学校部活動方針に即して、適切な練習時間や休養日を設定することで生徒の健康管理に努めました。</p> <p>《実績値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの各種目の結果の平均値：48.83点／80.00点（全国：50.27点／80.00点）</li> <li>・「運動やスポーツをすることが好き」と答えた児童・生徒の割合：88.4%</li> </ul> <p>令和元年度決算：17,172円</p>
<p style="text-align: center;"><b>取り組みに対する達成状況</b> <span style="float: right;">【 ○ 】</span></p>	

(5) 生徒指導の充実	
方向性	学校・家庭・地域・関係機関が連携し、個に応じたきめ細かな指導の充実に努め、いじめ・暴力行為・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を行います。
取り組み	平成30年9月に改定した「枚方市いじめ防止基本方針」に基づき、「枚方市生徒指導

	<p>マニュアル（いじめ防止編）」とともに、実用性のあるいじめ対処のためのマニュアルを活用し、いじめの未然防止、早期解決に努めます。</p> <p>また、学校に学識経験者、心理・福祉の専門家等で構成する「緊急支援チーム」を派遣する等、いじめを受けた児童・生徒やその保護者に寄り添い、適切な対応に努めます。</p> <p>各学校においては、生徒指導主事・主担者を核とした組織的な対応を行うとともに、家庭訪問等を通じて保護者との信頼関係の構築、学校アセスメントシートを活用した客観的な状況把握・改善に努めます。</p> <p>また、子どもを取り巻く環境を踏まえ、教育と福祉が緊密な連携のもと、さまざまな視点から子どもたちを継続して見守り、その成長を支える取り組みの充実を図ります。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「枚方市生徒指導マニュアル（いじめ防止編）」を活用した研修実施校の割合：100%</li> <li>・暴力発生件数：前年度（小 161 件・中 159 件）より 50.0%減少</li> </ul>
	<p>平成 31 年度当初予算：115,375 千円</p>
<b>実績</b>	<p>平成 30 年 9 月に改定した「枚方市いじめ防止基本方針」に基づき、「枚方市生徒指導マニュアル（いじめ防止編）」とともに、各学校にいじめの未然防止、早期発見・解消のため、組織的に対応できるよう指示しました。</p> <p>また、子どもたちが抱える様々な課題に適切に対応するため、「ひらかた学校支援チーム」（元校長やスクールソーシャルワーカー、子どもの未来応援コーディネーター等）が定期的に学校訪問を行い、助言を行いました。また、小学校では生徒指導主事、中学校では生徒指導主事が中心となって生徒指導体制が構築され、これらの成果により、暴力発生件数が大幅に減少しました。</p> <p>《実績値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「枚方市生徒指導マニュアル（いじめ防止編）」を活用した研修実施校の割合：100%</li> <li>・暴力発生件数：令和元年度 小学校 85 件、中学校 51 件。 前年度（小 161 件・中 159 件）から 57.5%減少</li> </ul> <p>令和元年度決算：101,985 千円</p>
	<p><b>取り組みに対する達成状況</b> 【 ◎ 】</p>

<b>（6）支援教育の充実</b>	
<b>方向性</b>	<p>すべての幼児・児童・生徒、教職員及び保護者並びに地域に対して、支援教育の理解と啓発を推進し、インクルーシブ教育システム（※）の理念を踏まえ、すべての子どもが「ともに学び、ともに育つ」という観点からの学校づくり・集団づくりの充実を図り、障害のある子ども一人ひとりのニーズに応じた支援を行います。</p> <p>※インクルーシブ教育システム…障害のある者と障害のない者が、同じ場で、可能な限りともに学ぶ仕組みのこと。</p>
<b>取り組み</b>	<p>支援教育コーディネーターの活動時間を確保するために非常勤講師を派遣し、校内の支援教育体制を充実させるとともに、支援教育に関する専門家等を学校園に派遣し、</p>

	<p>教職員への指導・助言を行います。</p> <p>また、支援学級においてタブレット端末を活用して、視覚支援等による理解力の向上について効果の検証を行います。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級に在籍する配慮を要する児童・生徒の個別の教育支援計画作成状況：令和元年度（2019年度）95.0%（平成30年度94.5%）</li> </ul> <p>平成31年度当初予算：214,415千円</p>
<b>実績</b>	<p>すべての子どもが「ともに学び、ともに育つ」という観点から、支援教育に関する専門家の派遣、学校看護師・介助員の配置、支援教育コーディネーターを支援するための非常勤講師の配置、備品の購入や貸与、小学校2校においてカメラ機能等を活用した視覚支援等、支援教育に係る環境整備を進めました。</p> <p>《実績値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級に在籍する配慮を要する児童・生徒の個別の教育支援計画作成状況：令和元年度（2019年度）100.0%（平成30年度94.5%）</li> </ul> <p>令和元年度決算：175,369千円</p>
<b>取り組みに対する達成状況</b>	
【 ◎ 】	

<b>（7）少人数学級充実事業の推進</b>	
<b>方向性</b>	<p>小学校第1学年から第4学年までを支援学級在籍児童を含む35人学級編制、第5・第6学年については、支援学級在籍児童を含む40人学級編制を実施します。</p>
<b>取り組み</b>	<p>本市独自の小学校第4学年までの少人数学級編制及び小学校第5・第6学年の支援学級在籍児童を含む40人学級編制を、引き続き実施するとともに、習熟度別指導や一部教科担任制等、さまざまな指導方法・指導形態を工夫することにより、児童の「生きる力」の育成を図ります。なお、対象となる学校の増学級数に対して任期付教員を配置します。</p> <p>少人数学級編制については、保護者アンケートにおける肯定的回答の割合や「基礎学力のたしかめテスト」等の結果から、効果が見られるため、引き続き実施します。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力のたしかめテストにおいて到達基準に達した人数の割合：対前年度比向上</li> <li>・学年末テストにおける全国調査の過去問題を活用した「課題に正対した問題」の平均正答率：対前回比向上</li> </ul> <p>平成31年度当初予算：317,953千円</p>
<b>実績</b>	<p>小学校第1学年から第4学年までを支援学級在籍児童を含む35人学級編制、第5・第6学年については、支援学級在籍児童を含む40人学級編制を実施しました。</p> <p>《実績値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力のたしかめテストにおいて到達基準に達した人数の割合：81.5%（平成30</li> </ul>

年度 86.6%) ・学年末テストにおける全国調査の過去問題を活用した「課題に正対した問題」の平均正答率：46.1% (平成 30 年度 48.5%)
令和元年度決算：345,716 千円 (※補正予算等の対応あり)
<b>取り組みに対する達成状況</b> 【 ○ 】

<b>(8) 教職員研修の充実</b>	
<b>方向性</b>	「キャリアステージに応じて学び続ける教職員の育成」「主体的・対話的で深い学びの実現に向け、『Hirakata 授業スタンダード』(第 2 ステージ)に基づいた授業改善(第 2 ステージ)」「子ども理解を基盤とした学校経営や学級経営、授業研究・研修への支援の充実」を図ります。
<b>取り組み</b>	<p>平成30年3月に大阪府教育委員会により示された「大阪府教員等育成指標」に準じた「教員等育成指標」に基づいた授業研究・研修への支援を充実し、教員の授業力向上と児童・生徒の学力向上を図ります。</p> <p>新学習指導要領を踏まえ、本市独自の教職員研修計画に基づき、教職員の経験年数や職務に応じて行う「基本研修」及び教育課題や教科等の専門性を高める「専門研修」を実施します。</p> <p>高い意欲と優れた指導力を有する教職員を育成する「授業の達人養成講座」を、2年連続講座としてさらに充実させ、教職員の授業力、指導力の向上を図り、その成果を学校園に発信していきます。</p> <p>指導主事、教育推進プランナー等が学校園を訪問し、経験年数の少ない教職員への指導、助言や授業研究・研修への継続的な指導・支援を行います。</p> <p>《目標値》 受講した研修内容を授業等に活用している教職員の割合 (研修を受講した教職員が各学校園において会議等で伝達したり、授業等で実践した割合)：100%</p> <p>平成 31 年度当初予算：6,709 千円</p>
<b>実績</b>	<p>今年度は、「『学び続ける教職員』を育成し、枚方の子どもたちの『生きる力』をはぐくむ」をテーマに、①キャリアステージに応じて学び続ける教職員の育成、②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「Hirakata 授業スタンダード」(第 2 ステージ)に基づいた授業改善、③子ども理解を基盤とした学校経営や学級経営、授業研究・研修への支援の充実を重点項目として、本市の教育課題に応じた独自のカリキュラムのもと、初任者研修や 10 年経験者研修をはじめ、教職員の経験・職務に応じた基本研修及び教育課題や教科等の専門性を高める専門研修を年間計 246 回実施し、教職員の資質・指導力の向上を図りました。</p> <p>また、教育推進プランナーを中心に、経験年数の少ない教員の育成及び学校園運営の支援、校内研究・校内研修の支援等に 1,208 回の学校訪問を実施しました。</p> <p>《実績値》</p>

	(研修を受講した教職員が各学校園において会議等で伝達したり、授業等で実践した割合) : 95.3%
	令和元年度決算 : 5,319 千円
<b>取り組みに対する達成状況</b>	<b>【 ○ 】</b>

<b>(9) コミュニティ・スクールの推進</b>	
<b>方向性</b>	小学校に順次設置し、地域全体で教育に取り組む体制を構築します。
<b>取り組み</b>	<p>保護者や地域住民等で構成され、学校運営や運営に必要な支援に関して協議する枚方におけるコミュニティ・スクールを小学校に順次設置します。また、研修会等を開催し、枚方におけるコミュニティ・スクールの実践事例の紹介や設置校の取り組みの発信を行い、「地域とともにある学校づくり」を推進します。</p> <p>《目標値》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校質問紙調査「コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」に対して肯定的回答の割合(設置校) : 100%</li> </ul> <p>平成31年度当初予算 : 1,565 千円</p>
<b>実績</b>	<p>一昨年度設置した5校に加え、昨年度新たに22校においてコミュニティ・スクールを設置しました。</p> <p>《実績値》</p> <p>学校質問紙調査「コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」に対して肯定的回答の割合(設置校) : 100%</p> <p>令和元年度決算 : 1,389 千円</p>
<b>取り組みに対する達成状況</b>	<b>【 ◎ 】</b>

<b>(10) 「児童の放課後を豊かにする基本計画」の策定</b>	
<b>方向性</b>	昨年度に続き小学校内で実施する放課後子ども教室モデル事業の実施結果及び児童の放課後対策審議会における調査・審議も踏まえ、子どもにとって望ましい「放課後」の実現に向け、既存事業との関係性についても検証し、本市の実情に応じた「児童の放課後を豊かにする基本計画」を策定します。
<b>取り組み</b>	<p>放課後子ども教室モデル事業を市立4小学校において、今年度は夏季期間を中心に実施し、利用者(児童・保護者)のニーズの実態や事業効果、学校や既存事業との関係における課題を分析・検証します。また、児童の放課後対策審議会における調査・審議も踏まえ、効率的・効果的な児童の放課後対策に向けた「児童の放課後を豊かにする基本計画」を令和元年度(2019年度)中に策定し、放課後子ども教室事業の本格実施に向けた準備を進めます。</p> <p>平成31年度当初予算 : 5,626 千円</p>

実績	放課後子ども教室モデル事業を、第3クールとして夏季休業期間中（7月22日～8月24日）に平成30年度と同じ市立4小学校（蹉跎、山田、津田、樟葉北小学校）で実施し、4校合計で延べ2,500人の参加がありました。事業実施後のアンケート結果及び第三者評価等を踏まえ、児童の自主性・社会性等の育成、学力向上など、安全安心な空間で仲間と過ごす時間をすべての児童に用意し、より豊かな放課後を実現するとともに効果的・効率的な運営を図るため、児童の放課後対策審議会から答申を受け、令和2年3月に「児童の放課後を豊かにする基本計画」策定しました。
	令和元年度決算：4,316千円
取り組みに対する達成状況	
【 ○ 】	

<b>（11）留守家庭児童会室のあり方の検討</b>	
方向性	放課後子ども教室の本格実施を見据え、民間活力の活用や適切な施設整備など、事業の再構築に向けた検討を行います。
取り組み	留守家庭児童会室の利用ニーズが急増し、その受け皿の確保や専用施設の老朽化への対応が課題となる中、「新・放課後子ども総合プラン（平成30年9月）」では、「放課後児童クラブ※と放課後子ども教室を小学校内で一体型として1万箇所以上で実施」、「両事業を新たに整備等する場合には学校施設を徹底的に活用」等目標が掲げられました。※本市では留守家庭児童会室のことをいう。
	放課後子ども教室など他の事業の実施趣旨や目的を踏まえつつ、民間活力の活用も含め検討を進めます。また、良好な授業中の学習環境と放課後の保育環境を併せ持つ校舎整備について検討を行います。
	<<目標値>> 令和2年（2020年）1月末時点の待機児童数（0人） 平成31年度当初予算：57,800千円（施設整備経費）
実績	令和元年度の入室児童数は4,859人（4月1日現在）と前年度比較で153人増となり、余裕教室の更なる活用などに取り組んだ結果、これまでと同様、待機児童0人を達成しました。
	また、留守家庭児童会室・放課後子ども教室等の放課後事業について、可能な範囲の融合を図り、「総合型放課後事業」として民間活力を活用しながら取り組みを進めるべく検討を進めるとともに、留守家庭児童会室の効率的・効果的な適用を図るため、良好な学校環境と保育環境の両立ができる学校施設整備について取り組みました。
令和元年度決算：43,314千円（施設整備経費）	
取り組みに対する達成状況	
【 ○ 】	

<b>（12）小中学校教育用 ICT 機器等の整備</b>	
方向性	ICTの活用による新しい学校教育の確立をめざすため、児童・生徒及び教員1人1台のタブレット型コンピュータ配備をはじめとしたICTの環境整備を進めます。
取り組み	小・中学校におけるICT整備については、第四中学校で実施する「未来学習研究事

	業」等で検証しながら、本年度中に「(仮称) 枚方市学校教育情報化推進計画」を策定します。既に整備済みの ICT も活用して中学校から段階的に国基準 (3 学級に 1 学級分) 以上の整備促進を図ります。 <<目標値>> 児童・生徒の一人あたりの教育用パソコンの台数：5.6 人に 1 台 (前年度実績：8.3 人に 1 台) 平成 31 年度当初予算：164,264 千円
実績	「未来学習研究事業」として、第四中学校では 1 人 1 台のタブレットの整備・活用による検証を行い、楠葉西中学校では、モバイルデータ通信 (LTE) を活用した通信環境の検証を行いました。 教育用 ICT 機器等の整備は、全中学校 19 校のコンピュータ教室にノート型パソコンを更新するとともに、新たに中学校 16 校に対して、41 台のタブレット型パソコンを追加で導入しました。その他、中学校 17 校のサーバの更新や授業支援ソフトウェアなどの整備を行うとともに、教員の授業における ICT 機器等の活用推進に向けて人的サポート体制を拡充しました。 <<実績値>> ・児童・生徒の一人あたりの教育用パソコンの台数：5.8 人に 1 台 令和元年度決算：165,952 千円 (※補正予算等の対応あり)
取り組みに対する達成状況	
	【 ○ 】

## 2. 行政改革・業務改善

### ◆新行政改革実施プランの改革課題

改革課題	取り組み内容・目標
37. 留守家庭児童会室の効率的・効果的な運用	学校施設を活用した放課後子ども教室モデル事業の検証結果や「児童の放課後を豊かにする基本計画」を策定する中で、留守家庭児童会室のあり方について検討を進めます。
実績	教室を良好な学校環境と保育環境の両立ができる学校施設(ハイブリット教室)として整備し、留守家庭児童会室として供用を始めました。また、留守家庭児童会室・放課後子ども教室等の放課後事業の総合的な運営と連携について、「児童の放課後を豊かにする基本計画」に基づき民間活力の活用も含む検討に取り組みました。
取り組みに対する達成状況	
	【 ○ 】

改革課題	取り組み内容・目標
45-2. 技能労務職員の適正配置に向けた取り組み (留守家庭児童会室営繕業務)	営繕業務については、具体的な実績の精査を行い、より効率的・効果的な運営を図る観点から、引き続き委託可能な業務の整理を行います。

<b>実績</b>	留守家庭児童会室の修繕に係る委託可能な業務を整理し、施設整備計画等による計画的な対応については業者委託により対応するとともに、緊急な対応については直営で実施するなど適切な業務運営を図りました。
<b>取り組みに対する達成状況</b>	
【 ○ 】	

改革課題	取り組み内容・目標
53. 教職員の資質・指導力の向上	経験の浅い教職員の育成、ミドルリーダー及び管理職の養成や児童・生徒の学力向上に向けた授業づくり・授業改善、校内の研究体制づくりのための学校支援など、本市独自の研修カリキュラムのもとで教職員の資質・指導力、授業力の一層の向上を図るため、研修を実施します。
<b>実績</b>	<p>初任者研修や10年経験者研修をはじめ、教職員の経験・職務に応じた基本研修及び教育課題や教科等の専門性を高める専門研修を年間計246回実施し、教職員の資質・指導力の向上を図りました。</p> <p>また、教育推進プランナーを中心に、経験年数の少ない教員の育成及び学校園運営の支援、校内研究・校内研修の支援等に1,208回の学校訪問を実施しました。</p>
<b>取り組みに対する達成状況</b>	
【 ○ 】	

◆業務改善のテーマ・目標

テーマ	取り組み内容・目標
プロジェクト・チームによる業務改善の推進	昨年度設置した各課の指導主事や課長代理等によるプロジェクト・チームにより引き続き、文部科学省指定「学校現場の業務改善加速事業」の検証や先進地域の取り組み事例研究等を行い、学校園及び教育委員会事務局のさらなる業務改善に取り組みます。
<b>実績</b>	<p>プロジェクト・チームによる会議を4回実施し、実態把握のため職員へのアンケートを行い、①学校へのメール送信時間15時の見直し、②電話対応時間の設定、③業務の精選の3つの課題に絞って取り組みました。①は、校長会等と調整しメール送信時間を17時までに変更し、②は電話の基本対応時間を業務時間内とするとともに、緊急時の対応について確認しました。③については、11月に教育委員会で設置した「教育委員会働き方改革推進チーム」で事務効果と課題の整理をおこないました。また、職員自らが新たな発想で業務に取り組み、教育委員会事務局の活性化を図るため、令和2年2月19日に、他府県で教育委員会事務局改革や活性化に成果を上げた外部講師を招き、教育長以下管理職を対象に、働き方改革についての研修会を実施しました。</p>
<b>取り組みに対する達成状況</b>	
【 ○ 】	

### 3. 予算編成・執行

- ◆施策・事業の計画・執行にあたっては、国庫補助金、大阪府補助金・委託金を活用する等、より効率的な予算編成に努めます。

<b>実績</b>	<p>課題を抱えた子どもを支援するため、スクールソーシャルワーカー活用事業及び枚方市学校いじめ対策審議会委員等外部専門家に係る経費に、国の教育支援体制整備事業費補助金を活用しました（251万2,000円）。また、「心の教室相談員」配置事業、不登校支援協力員配置事業等に係る経費に、国の子どもの貧困緊急対策事業費補助金（子どもの未来応援コーディネート事業 1,303万6,900円）を活用し、教育相談体制の充実を図りました。さらに、学校園で医療的ケアを行う学校看護師配置に係る経費等に、国の教育体制整備事業費補助金（切れ目ない支援体制整備充実事業 835万3,000円）及び府の市町村医療的ケア体制整備推進事業補助金（281万672円）を活用し、支援教育の充実を図りました。</p> <p>また、文部科学省委託事業「学校現場における業務改善加速事業」を受託し、楠葉中学校区3校において、先進地域の視察、業務改善アドバイザーを招聘して業務改善研修を実施するなど、委託金（60万8,468円）を有効活用した実践研究を進めました。他にも、コミュニティ・スクール事業等の実施に係る学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金（コミュニティ・スクール事業4万1,000円、外部人材活用事業442万1,000円、放課後自習教室事業1,288万1,000円）を確保するなど、可能な限り国庫補助金、大阪府補助金・委託金を有効活用し、効率的な予算執行に努めました。</p>
<b>取り組みに対する達成状況</b>	
【 ◎ 】	

### 4. 組織運営・人材育成

- ◆学校教育部各課の緊密な連携を図るため、定期的な部内会議をもち、効率的・効果的な組織運営に努めます。

<b>実績</b>	<p>部内課長以上が出席する定例の部内会議や各担当のミーティング等により、各課が情報共有を進め、効率的・効果的な組織運営に努めました。</p>
<b>取り組みに対する達成状況</b>	
【 ◎ 】	

- ◆専門的な知識や技術、国や府の動向・先進事例等を習得・把握するために研修を実施し、職員力の向上に努めます。

<b>実績</b>	<p>指導主事研修会を年7回実施し、外部講師を招聘し講演いただくなど、専門的な知識や技術の習得を図りました。また、経験豊富な元校長等とペアで業務を担い、日常的なOJTにより、経験の浅い指導主事の育成を図りました。</p>
<b>取り組みに対する達成状況</b>	
【 ◎ 】	

- ◆学校教育部職員の健康管理とメンタルヘルスケアに努めるとともに、朝礼や終礼を活用して、一日の業務内容の確認や振り返りを行うことで「働き方」に関する意識改革を進め、時間外勤務の縮減に努めます。

<b>実績</b>	健康診断の受診、ストレスチェックの受検を促し、職員の健康管理に努めました。また時間外勤務の縮減については、外部講師を招聘して研修を開催し、「働き方」に関する意識改革を進めました。
<b>取り組みに対する達成状況</b>	
【 ○ 】	

- ◆指定管理者制度の導入拡大や児童の放課後施策等の新たな取り組みにおいても質の高いサービスを確保するため、各分野の職員が日常業務や職員研修を通じて、担当する分野の専門的な知識や技術を習得することで、個人及び組織としての能力の向上を図ります。  
また、留守家庭児童会室の保育の質の向上を図るため、従事する職員に対する体系的な職員研修を行います。

<b>実績</b>	留守家庭児童会室では、昨今の児童を取り巻くさまざまな問題、児童虐待や人権、障害児の発達や心理といった内容の研修を合計10回開催し、現場で活用できるように取り組みました。
<b>取り組みに対する達成状況</b>	
【 ○ 】	

## 5. 広報・情報発信

- ◆ホームページ・広報ひらかた・プロモーションビデオ等を活用し、学校教育部の取り組みや学校園の教育活動の積極的な発信に努めます。

<b>実績</b>	学力向上に向けた取り組みや小中一貫英語教育など枚方の学校教育の取り組みや、各学校園の特色ある取り組みについてホームページ、広報ひらかた、学校だよりを通じて広く情報発信をしました。また、学校園には、定期的にホームページを更新して、市民、保護者に機をのがさず、情報発信するよう助言しました。
<b>取り組みに対する達成状況</b>	
【 ◎ 】	

- ◆「枚方市教育フォーラム」を開催し、より多くの市民に枚方の教育を発信します。

<b>実績</b>	令和元年7月23日、火曜日、関西外国語大学 御殿山キャンパスの谷本ホールで開催。第1部では基調講演、第2部では、パネルディスカッションを通して、「子ども達の豊かな言語能力の育成」に向けた取組などについて、枚方の教育を発信しました。
<b>取り組みに対する達成状況</b>	
【 ◎ 】	